

第二章 丸山豊記念現代詩賞の歴史

第一節 丸山豊記念現代詩賞の選考委員

丸山豊記念現代詩賞は第一回の谷川俊太郎氏の『女に』から始まり、二十五回の白井明大氏の『生きようと生きるほうへ』まで、二六人の受賞者となる。歴代受賞者の氏名・作品名、および選考委員は第2表の通りである。

選考委員は一回から三回までが安西均・川崎洋両氏、四回から十一回までは川崎洋・森崎和江両氏である。川崎・森崎氏は丸山豊先生とともに久留米叙情派として活躍された詩人であり、この丸山賞の評価を高める大きな役割を果たしていた。第十二回からは清水哲男・高橋順子両氏に交代し、第二十三回までの十二年の間、選考委員を務めていただいた。なお、森崎和江氏は第十四回の、高橋順子氏は第十回の丸山賞の受賞者でもある。第二十四回から野沢啓・木坂涼両氏に選考委員をお願いしている。選考委員の交代は前任選考委員からの推薦・指名をうけて、事務局から委嘱を行っている。

☆選考委員のプロフィール

このプロフィールは事務局で作成したりフレットなどに掲載したものを利用したが、いくらか改変したところがある。安西氏、川崎氏についてはその種の物が見当たらないため、今回新たに事務局で作成した。

安西均（第一回から第三回選考委員）

一九一九年福岡県生まれ。一九四三年から一九五九年まで朝日新聞記者。戦争中には『山河』、戦後は『歷程』『地球』同人。

戦後四七年四月に創刊された丸山豊主宰の『母音』には野田宇太郎・俣野衛などと参加し、作品を発表しており、丸山豊を師匠としていたと語っている。詩作は十数冊あり、八三年には『暗喩の夏』で現代詩花椿賞、八九年には『チェーホフの猟銃』で現代詩人賞。日本現代詩人会会長、日本文芸協会会員。一九九四年二月死去。

川崎洋（第一回から第十一回選考委員）

一九三〇年生まれ。四四年に福岡に疎開。八女高校卒。五一年西南学院専門学校英文科（現西南大学）中退。四八年ごろから詩作を始め、五〇年には第二期の『母音』に参加する。五三年には茨木のり子らと『權』を創刊。詩集『はくちよう』、放送詩劇『魚と走る時』などを書き、五七年から放送作家として文筆生活に入る。七一年には文化放送のラジオドラマ『ジャンボ・アフリカ』の脚本で、芸術選奨文部大臣賞受賞。八七年には詩集『ビスケットの空カン』で高見順賞、九八年には『日本方言詩集』ほかで藤村記念歴程賞を受賞している。二〇〇四年一〇月死去。

森崎和江（第四回から第十一回選考委員）

一九二七年、現在の韓国大邱市生まれ。一九四七年、現福岡県立女子大学家政科卒業。一九五〇年一〇月丸山豊主宰の『母音』同人となる。ラジオドラマを経て文筆業に入り現在にいたる。詩集に『さわやかな欠如』『かりうどの朝』『森崎和江詩集』『地球の祈り』ほか。著書として『まっくらー女坑夫からの聞き書き』『第三の性・はるかなるエロス』『からゆきさん』『遙かなる祭』『二つのことば・二つのこころーある植民二世の戦後』など多数。丸山豊記念現代詩賞選考委員を第四回から第十一回ま

で務め、第十四回丸山豊記念現代詩賞を受賞。一九九一年福岡市文化賞、九四年西日本文化賞、福岡県文化賞創造部門賞、二〇〇二年には男女共同参画県民賞などを受賞。

清水哲男（第十二回から第二十三回選考委員）

一九三八年東京生まれ。一九六四年京都大学文学部哲学科卒業。在学中に詩集『喝采』刊。一九六四年芸術生活社に入社。以後、河出書房、ダイヤモンド社を経て、文筆業。詩集に『水甕座の水』（H氏賞）、『東京』（詩歌文学館賞）、『夕日に赤い帆』（萩原朔太郎賞・土井晩翠賞）など。エッセイ集に『詩的漂流』『詩に踏まれた猫』『現代つれづれ草』『さらば、東京巨人軍。』など多数。二〇〇六年『黄燐と投げ縄』で第一回三好達治賞、第六回山本健吉文学賞詩部門受賞。

高橋順子（第十二回から第二十三回選考委員）

一九四四年千葉県生まれ。東京大学仏文学科卒。出版社に勤務しながら第一詩集『海まで』発行。おもな詩集に『幸福な葉っぱ』（現代詩花椿賞）『時の雨』（読売文学賞）、『貧乏な椅子』（第十回丸山豊記念現代詩賞）、『あさって歯医者さんに行こう』、『お遍路』、『エッセイ集』『うたはめぐる』『草しずく』『花の巡礼』『恋の万葉・東歌』『一茶の連句』、『写真歳時記』『雨の名前』『風の名前』『花の名前』『月の名前』ファンタジー『緑の石と猫』など。夫は小説家・故車谷長吉。

野沢 啓（第二十四回から第二十五回選考委員）

一九四九年東京生まれ。東京大学大学院フランス語フランス文学科修士課程修了。出版社経営のかたわら詩と評論の活動をつづいている。H氏賞選考委員を二期つとめる。

著書に詩集『大いなる帰還』『影の威嚇』『決意の人』、評論『方法としての戦後詩』『詩の時間、詩という自由』『隠喩的思考』『移動論』がある。本名の西谷能英の名で『出版文化再生』あらためて本の力を考える』『出版のためのテキスト実践技篇／執筆篇』『同／編集篇』『同／総集篇』『編集者・執筆者のための秀丸エディタ超活用術』などがある。

現在、日本現代詩人会、日本文藝家協会所属。

木坂 涼（第二十四回から第二十五回選考委員）

一九五八年埼玉県生まれ。新鮮でユニークな作風が注目を浴び、詩集『ツツツツ』で現代詩花椿賞、『金色の網』で芸術選奨文部大臣新人賞を受賞。その他の詩集に『木坂涼詩集』『音の箱舟モーツァルト』『どこへ』『ある日』など。

児童書の仕事を多く手がけ、詩集『ひつじがいつびき』『五つのエラーをさがせ!』、絵本『スズムシくん』、翻訳絵本『ぜったいたべないからね』『ワイズ・ブラウンの詩の絵本』『ちよつとだけまいご』ほか多数。創作童話『ともだち』、共訳に『アメリカ子ども詩集ガラガラヘビの味』。その他、エッセイ集『ペランダの博物誌』『おとこ親の書いた子ども詩』などがある。

第2表 過去の受賞作品・受賞者・選考委員一覧

回	受賞作品名	出版社名	受賞者名	選考委員
1	女に	マガジンハウス	谷川俊太郎（東京都）	安西均、川崎洋
2	上州おたくら 私の方言詩集	思潮社	伊藤信吉（神奈川県）	安西均、川崎洋
3	潮の庭から	花神社	加島祥造・新川和江 （長野県・東京都）	安西均、川崎洋
4	鳥の歌	思潮社	朝倉勇（東京都）	森崎和江、川崎洋
5	いのち	石風社	みずかみかずよ（福岡県）	森崎和江、川崎洋
6	秋山抄	編集工房ノア	安水稔和（兵庫県）	森崎和江、川崎洋
7	夷歌	オノ企画	相澤史郎（神奈川県）	森崎和江、川崎洋
8	母の耳	土曜美術出版 販売	野田寿子（福岡県）	森崎和江、川崎洋
9	風の夜	思潮社	高良留美子（東京都）	森崎和江、川崎洋
10	貧乏な椅子	花神社	高橋順子（東京都）	森崎和江、川崎洋
11	うめぼしリモコン	理論社	まど・みちお（神奈川県）	森崎和江、川崎洋
12	今、ぼくが死んだら	思潮社	金井雄二（神奈川県）	清水哲男、高橋順子
13	エルヴィスが死んだ日の夜	書肆山田	中上哲夫（神奈川県）	清水哲男、高橋順子
14	ささ笛ひとつ	思潮社	森崎和江（福岡県）	清水哲男、高橋順子
15	ズレる？	てらいんく	西沢杏子（東京都）	清水哲男、高橋順子
16	幸福	思潮社	井川博年（東京都）	清水哲男、高橋順子
17	血のたらちね	書肆山田	古賀忠昭（福岡県）	清水哲男、高橋順子
18	花と死王	思潮社	中本道代（東京都）	清水哲男、高橋順子
19	適切な世界の適切ならざる私	思潮社	文月悠光（北海道）	清水哲男、高橋順子
20	新しい浮子 古い浮子	栗売社	佐々木安美（東京都）	清水哲男、高橋順子
21	月しるべ	砂子屋書房	市原千佳子（沖縄県）	清水哲男、高橋順子
22	透明海岸から鳥の島まで	思潮社	秋亜綺羅（宮城県）	清水哲男、高橋順子
23	ペチャブル詩人	書肆山田	鈴木志郎康（東京都）	清水哲男、高橋順子
24	流れもせんで、在るだけの川	ふらんす堂	若尾儀武（神奈川県）	野沢啓、木坂涼
25	生きようと生きるほうへ	思潮社	白井明大（沖縄県）	野沢啓、木坂涼